



会場全体で盛り上がった洞爺湖音頭

第33回 洞爺湖町ふれ合う心の文化広場

(洞爺湖文化団体協議会主催)が、3月11日、洞爺湖文化センターで開催され、日頃の活動の成果を披露しました。毎年3月に実施するステージ発表会で、34団体、約170人が出演し、発表を通じて交流を深めました。

オープニングは、清水友愛の里琴クラブ「風雅」の演奏で、息の合った洞爺湖太極拳同好会の演舞や千鳥会のこぶしのきいた民謡がそれに続き、その他カラオケ、舞踊、伝統芸能など多種多様な演目が披露され、多くの聴衆を楽しませました。第2部として寺島3姉妹による江差追分特別公演も行われ、声量のある力強い歌声を会場に響かせました。

日頃の活動成果ステージで発表 ふれ合う心の文化広場

思い出を胸に新たな旅立ち 町内小・中・高等学校卒業式

町内の小・中・高等学校で卒業式が行われ、先生や在校生、保護者が見守る中、卒業生一人一人に卒業証書が手渡されました。3月1日に行われた虻田高校を皮切りに、13日には洞爺中学校。14日に虻田中学校。16日には虻田小学校。20日には、洞爺湖温泉小学校ととうや小学校でそれぞれ行われ、卒業生は思い出を胸に、慣れ親しんだ校舎を巣立っていきました。



気持ちを込めて合唱する虻田小卒業生



大年校長から卒業証書を受け取る洞爺中卒業生

火山噴火に備える講演会 有珠山の奇跡を再び

有珠山の火山噴火に備える講演会(町と胆振総合振興局室蘭建設管理部主催)が3月24日、洞爺湖文化センターで開かれ、約150人の住民たちが参加しました。

講演は、岡田 弘、新谷 融両北大名誉教授。岡田氏は、現在の火山対策の課題と人材の育成の重要性について述べ、新谷氏は、防災のまちづくりを通じて、次の噴火に向けて準備をしていくことの大切さを訴えました。引き続き、講演者の2人に夏目與市洞爺湖有珠火山マイスター、中西由一北海道砂防ボランティア協会副会長の2人が加わり、みずみどり空間研究所を主宰する吉井厚志氏の進行で、噴火で犠牲者をださな



講演をする岡田 弘北大名誉教授

いために何ができるのかを話し合いました。

3月24日、消防功勞者消防庁長官定例表彰功勞章を受章した寺島 勉洞爺湖消防団長への伝達式が、洞爺湖温泉のホテルで行われました。

同功勞章は、現職消防団員としては最高位の榮譽で、消防団長の任期が10年以上の人が対象。今回道内では、12人が受章し、その中で寺島団長の消防団歴55年は最長です。寺島団長は「身に余る光榮で、先輩、現団員の協力があってこそこの受章。これを励みに団員一丸となって、町民の安全と財産を守る活動にがんばっていきたい」と受章の喜びを話しました。



功勞章を受章した寺島 勉洞爺湖消防団長

寺島 勉洞爺湖消防団長 消防庁長官定例表彰功勞章受章

ひな祭りの絵本読み聞かせ 図書室子どもまつり

図書室子どもまつり（教育委員会社会教育課主催）が3月3日、洞爺総合センターで開かれ、18人の子どもたちが参加しました。

当日は、たんぽぽの会の会員が読み手となり、「のはらのひなまつり」「あったかいな」「ねえたんがすきなのに」の3冊の絵本を読み聞かせのほか、うれしいひなまつりを歌いながらお手玉ゲームを行いました。

最後に、アニメ映画「あらしのよるに」を鑑賞し、

楽しいひとときを過ごしました。



絵本の読み聞かせに真剣に聴き入る子どもたち

平成29年度
冬季レクリエーション大会（洞爺湖町自治会連合会主催）



優勝した香川恵和クラブAチーム

が、3月4日香川コミュニティセンター体育館で行われました。会員の健康増進と交流を目的に、約100人、15チームが参加し、ゲートゴルフを楽しみました。

競技は、5人が1チームとなり、3ヶ所先にあるゲートを通り、更に3ヶ所先に90度間隔に刻まれたラインの停止した地点での得点で競い合うものです。ゲートをうまく通過できない人や高得点で笑顔の人など、一打一打に一喜一憂しながら、大会は盛りあがりました。

結果は次のとおり。優勝 香川恵和クラブAチーム（香川自治会） 2位 第4自治会 3位 財田自治会

ゲートゴルフで盛り上がる 冬季レクリエーション大会

3月4日、平成29年度洞

湖スポーツクラブ主催）が、あぶた体育館で開かれ、応援団を含めて、5チーム、約30人が参加しました。



フロッカーの行方を見つめる参加者

フロアカーリングは、木製のターゲットを的にキャスター付きの木製のフロッカーを送球し、得点を競うスポーツです。

当日は、1試合4セットの合計点で勝敗を決定する総当たり戦を実施しました。

結果は次のとおり。優勝 本町Cチーム 2位 洞爺Bチーム 3位 洞爺Aチーム

狙いは木製ターゲット フロアカーリング大会

キャンプや災害時に活躍 ロケットストーブを使ってみよう

洞爺湖町地域おこし協力隊が主催した「ロケットストーブを使ってみよう」が3月10日、洞爺財田自然体験ハウスで行われ、町内外から21人が参加しました。ロケットストーブは、薪や廃木材などで燃焼するストーブで簡単に火が起こせるためキャンプや災害時に活躍します。

アドバイザーの豊浦町地域おこし協力隊の大橋三千雄さんの説明の後、車のオイル缶に穴を開け、煙突を通してロケットストーブを製作。

最後は実際に着火し、ダッチオーブンで地場産の

じゃがいもやりんごなどを蒸して、おいしく味わいました。



製作したロケットストーブでじゃがいもなどを調理する参加者

まちのわだい

